

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

- ① 銀行業
銀行業では、経常収益は、資金運用残高の増加に伴い前年度実績程度の資金運用収益を確保したものの、手数料収入や株式の売却益が減少したため、前年度比1億95百万円減収の136億92百万円となりました。また、経常費用は有価証券関係の損失が増加したことに加え、貸倒引当金の繰入負担が増加したことから、前年度比38億93百万円増加しました。この結果、経常損益は前年度比40億86百万円減少の27億50百万円の損失となりました。
- ② リース業
リース業では、経常収益は、リースなどの取扱残高が増加し、営業収益が増加したことから、前年度比1億97百万円増収の55億65百万円となりました。一方、経常費用は貸倒引当金の繰入負担が増加したことなどから、前年度比3億6百万円増加しました。この結果、経常利益は前年度比1億9百万円減益の43百万円となりました。
- ③ その他の事業
その他の事業では、経常収益は、保証料収入の減少により前年度比36百万円減収の1億23百万円となりました。また、経常費用は貸倒引当金の取崩が前年度より減少したことから、前年度比27百万円増加しました。この結果、経常利益は前年度比63百万円減益の89百万円となりました。
- ④ キャッシュ・フロー
① 現金及び現金同等物の増減状況
当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前年度末比136億88百万円増加して353億85百万円となりました。これは、効率的な資金の運用・調達を行う中で、貸出金が21億71百万円増加し、有価証券の資金運用により14億42百万円支出が増加したものの、預金・譲渡性預金による資金調達が197億9百万円増加したことなどによるものです。
- ② 営業活動によるキャッシュ・フロー
当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、164億8百万円となりました。これは、主として銀行業において貸出金による資金運用が21億71百万円増加したものの、預金・譲渡性預金による資金調達が197億9百万円増加したことなどによるものです。また、前年度末比では、103億84百万円増加しました。これは、主として銀行業において、預金・譲渡性預金によるキャッシュ・フローが140億82百万円増加したことなどによるものです。
- ③ 投資活動によるキャッシュ・フロー
当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、24億37百万円の減少となりました。これは、主として銀行業において有価証券の売却・償還により414億50百万円の収入があった一方で、取得により428億92百万円支出したことなどによるものです。また、前年度末比では、99億82百万円増加しました。これは、主として有価証券の取得により85億65百万円支出が増加したものの、売却・償還により149億38百万円収入が増加したことなどによるものです。
- ④ 財務活動によるキャッシュ・フロー
当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、2億82百万円の減少となりました。これは、主として配当金の支払いによるものです。また、前年度末比では、50百万円増加しました。これは、自己株式の売却による収入が増加したことなどによるものです。

2. 主要な経営指標等の推移

当連結会計年度の前4連結会計年度及び当連結会計年度に係る次に掲げる主要な経営指標等の推移

項目	連結会計年度				
	平成16年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	平成17年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	平成18年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	平成19年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	平成20年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
連結経常収益	17,396 百万円	17,773	18,458	18,848	18,933
連結経常利益又は連結経常損失(△)	1,516 百万円	2,037	1,462	1,643	△ 2,609
連結当期純利益又は連結当期純損失(△)	858 百万円	941	692	735	△ 2,753
連結純資産額	31,639 百万円	33,431	35,424	32,337	26,496
連結総資産額	557,785 百万円	565,890	576,775	578,000	592,809
1株当たり純資産額	507.63 円	536.65	534.55	482.64	387.17
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)	13.76 円	15.11	11.11	11.80	△ 44.21
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	— 円	—	—	—	—
連結自己資本比率(国内基準)	9.28 %	9.59	9.83	9.83	9.29
連結自己資本利益率	2.77 %	2.89	2.07	2.32	△ 10.16
連結株価収益率	35.53 倍	32.75	38.61	30.50	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,995 百万円	4,176	14,696	6,024	16,408
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,735 百万円	△ 11,809	△ 17,140	△ 12,419	△ 2,437
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 324 百万円	△ 326	△ 317	△ 332	△ 282
現金及び現金同等物の期末残高	39,143 百万円	31,186	28,425	21,696	35,385

- (注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2. 連結純資産額及び連結総資産額の算定にあたり、平成18年度から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。
3. 「1株当たり純資産額」及び「1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)」(以下、「1株当たり情報」という。)の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。1株当たり純資産額は、企業会計基準適用指針第4号が改正されたことに伴い、平成18年度から同適用指針を適用しております。また、これら1株当たり情報の算定上の基礎は、「1株当たり情報」に記載しております。なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、平成16年度、平成17年度、平成18年度及び平成19年度は潜在株式がないので、平成20年度は1株当たり当期純損失金額を計上しているため記載しておりません。
4. 連結自己資本比率は、平成18年度末から、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。なお、平成17年度以前は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成5年大蔵省告示第55号に定められた算式に基づき算出しております。

●銀行及びその子会社等の直近の2連結会計年度における財産の状況

連結財務諸表

1. 当行の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。ただし、前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)は、改正前の連結財務諸表規則及び銀行法施行規則に基づき作成し、当連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)は、改正後の連結財務諸表規則及び銀行法施行規則に基づき作成しております。また、「会社法」(平成17年法律第86号)に基づき、監査法人トーマツの監査証明を受けております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)及び当連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)の連結財務諸表について、監査法人トーマツの監査証明を受けております。
3. 連結財務諸表その他の事項の金額については、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表
(資産の部)

(単位：百万円)

科目	年度別	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
現金預け金※6		22,457	35,675
買入金銭債権		67	113
商品有価証券		96	332
有価証券※6,11		126,703	122,866
貸出金※1,2,3,4,5,7		397,028	399,200
外国為替		287	493
リース債権及びリース投資資産※6			7,745
その他資産※1,4,6		5,694	6,871
有形固定資産※8,9,10		17,194	9,999
建物		1,833	1,717
土地		6,943	6,998
リース資産			5
建設仮勘定		—	54
その他の有形固定資産		8,417	1,224
無形固定資産		2,844	2,446
ソフトウェア		108	266
その他の無形固定資産		2,735	2,179
繰延税金資産		5,496	5,570
支払承諾見返		8,217	8,157
貸倒引当金		△8,088	△6,663
資産の部合計		578,000	592,809

(負債及び純資産の部)

(単位：百万円)

科目	年度別	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
預渡性預金※6		520,418	539,137
借入金※6		3,769	4,760
その他負債		5,276	6,520
退職給付引当金		4,160	3,781
役員退職慰労引当金		1,580	1,599
偶発損失引当金		393	462
偶発損失引当金		53	113
再評価に係る繰延税金負債※8		1,794	1,780
支払承諾		8,217	8,157
負債の部合計		545,663	566,312
資本剰余金		8,000	8,000
利益剰余金		5,759	5,759
自己株式		14,064	11,000
株主資本合計		△119	△68
株主資本合計		27,704	24,691
その他有価証券評価差額金		160	△2,712
土地再評価差額金※8		2,173	2,153
評価・換算差額等合計		2,334	△558
少数株主持分		2,298	2,363
純資産の部合計		32,337	26,496
負債及び純資産の部合計		578,000	592,809

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	年度別	前連結会計年度 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)
経常収益		18,848	18,933
資金運用収益		11,509	11,587
貸出金利息		9,638	9,518
有価証券利息配当金		1,736	1,881
コールローン利息及び買入手形利息		119	119
預け金利息		12	11
その他の受入利息		1	55
役務取引等収益		1,910	1,710
その他業務収益		4,994	5,328
その他経常収益※1		433	307
経常費用		17,204	21,543
資金調達費用		1,369	1,457
預金利息		1,252	1,350
譲渡性預金利息		9	10
コールマネー利息及び売渡手形利息		0	0
借用金利息		107	96
その他の支払利息		0	0
役務取引等費用		665	625
その他業務費用		5,001	6,059
営業経費		8,015	8,605
その他経常費用		2,152	4,794
貸倒引当金繰入額		791	2,281
その他の経常費用※2		1,361	2,513
経常利益又は経常損失(△)		1,643	△2,609
特別利益		27	126
固定資産処分益		0	120
その他の特別利益※3		27	6
特別損失		136	31
固定資産処分損		47	23
減損損失※4		89	6
その他の特別損失		—	1
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)		1,535	△2,514
法人税、住民税及び事業税		739	142
法人税等調整額		△123	24
法人税等合計			166
少数株主利益		184	72
当期純利益又は当期純損失(△)		735	△2,753

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科目	年度別				前連結会計年度	当連結会計年度
					(平成19年4月1日～平成20年3月31日)	(平成20年4月1日～平成21年3月31日)
株主資本	前	当	期	末	8,000	8,000
	当	期	末	残	—	—
	当	期	末	高	8,000	8,000
資本剰余金	前	当	期	末	5,759	5,759
	当	期	末	残	—	—
	当	期	末	高	5,759	5,759
利益剰余金	前	当	期	末	13,613	14,064
	当	期	末	残	△311	△311
	当	期	末	高	735	△2,753
	当	期	末	高	△0	△19
	当	期	末	高	27	20
	当	期	末	高	450	△3,063
	当	期	末	高	14,064	11,000
自己株式	前	当	期	末	△99	△119
	当	期	末	残	△20	△24
	当	期	末	高	1	74
	当	期	末	高	△19	50
	当	期	末	高	△119	△68
株主資本合計	前	当	期	末	27,272	27,704
	当	期	末	残	△311	△311
	当	期	末	高	735	△2,753
	当	期	末	高	△20	△24
	当	期	末	高	0	55
	当	期	末	高	27	20
	当	期	末	高	431	△3,013
	当	期	末	高	27,704	24,691
評価・換算差額等	前	当	期	末	3,820	160
その他有価証券評価差額金	前	当	期	末	△3,660	△2,872
	当	期	末	残	△3,660	△2,872
	当	期	末	高	160	△2,712
土地再評価差額金	前	当	期	末	2,201	2,173
	当	期	末	残	△27	△20
	当	期	末	高	△27	△20
	当	期	末	高	2,173	2,153
評価・換算差額等合計	前	当	期	末	6,022	2,334
	当	期	末	残	△3,687	△2,893
	当	期	末	高	△3,687	△2,893
	当	期	末	高	2,334	△558
少数株主持分	前	当	期	末	2,129	2,298
	当	期	末	残	168	65
	当	期	末	高	168	65
	当	期	末	高	2,298	2,363
純資産合計	前	当	期	末	35,424	32,337
	当	期	末	残	△311	△311
	当	期	末	高	735	△2,753
	当	期	末	高	△20	△24
	当	期	末	高	0	55
	当	期	末	高	27	20
	当	期	末	高	△3,518	△2,827
	当	期	末	高	△3,087	△5,840
	当	期	末	高	32,337	26,496

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	年度別	前連結会計年度 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)		1,535	△ 2,514
減価償却費		3,334	946
減損損失		89	6
貸倒引当金の増減(△)		△ 792	△ 1,727
退職給付引当金の増減額(△は減少)		△ 102	19
資金運用収益		△ 11,509	△ 11,587
資金調達費用		1,369	1,457
有価証券関係損益(△)		585	2,831
為替差損益(△は益)		0	0
固定資産処分損益(△は益)		1	△ 103
貸出金の純増(△)減		△ 3,573	△ 2,171
預金の純増減(△)		5,350	18,718
譲渡性預金の純増減(△)		277	991
借入金(劣後特約借入金を除く)の純増減(△)		△ 710	1,244
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減		412	470
コールローン等の純増(△)減		8	△ 45
外国為替(資産)の純増(△)減		△ 87	△ 206
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減			112
資金運用による収入		11,742	11,517
資金調達による支出		△ 1,062	△ 1,350
その他		435	△ 1,609
小 計		7,304	16,998
法人税等の支払額		△ 1,279	△ 590
営業活動によるキャッシュ・フロー		<u>6,024</u>	<u>16,408</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出		△ 34,327	△ 42,892
有価証券の売却による収入		11,440	16,042
有価証券の償還による収入		15,072	25,408
有形固定資産の取得による支出		△ 3,193	△ 768
有形固定資産の売却による収入		207	209
無形固定資産の取得による支出		△ 1,619	△ 437
投資活動によるキャッシュ・フロー		<u>△ 12,419</u>	<u>△ 2,437</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー			
配当金の支払額		△ 311	△ 310
少数株主への配当金の支払額		△ 1	△ 1
自己株式の取得による支出		△ 20	△ 24
自己株式の売却による収入		0	55
財務活動によるキャッシュ・フロー		<u>△ 332</u>	<u>△ 282</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額		<u>△ 0</u>	<u>△ 0</u>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 6,728	13,688
現金及び現金同等物の期首残高		<u>28,425</u>	<u>21,696</u>
現金及び現金同等物の期末残高 ※1		21,696	35,385

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

	前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
1. 連結の範囲に関する事項	(1) 連結子会社 4社 筑銀ビジネスサービス株式会社 ちくぎんコンピュータサービス株式会社 ウエスタンリース株式会社 筑邦信用保証株式会社	(1) 連結子会社 同左
	(2) 非連結子会社 該当ありません。	(2) 非連結子会社 同左
2. 持分法の適用に関する事項	(1) 持分法適用の非連結子会社 該当ありません。	(1) 持分法適用の非連結子会社 同左
	(2) 持分法適用の関連会社 該当ありません。	(2) 持分法適用の関連会社 同左
	(3) 持分法非適用の非連結子会社 該当ありません。	(3) 持分法非適用の非連結子会社 同左
	(4) 持分法非適用の関連会社 該当ありません。	(4) 持分法非適用の関連会社 同左
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と同一であります。	同左
4. 会計処理基準に関する事項	(1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法 商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。	(1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法 同左
	(2) 有価証券の評価基準及び評価方法 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては、連結決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法（定額法）により行っております。 なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。	(2) 有価証券の評価基準及び評価方法 同左
	(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。	(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 同左
	(4) 減価償却の方法 ①有形固定資産 当行の有形固定資産は、定率法を採用しております。 また、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物：3年～50年 動産：2年～20年 連結子会社の有形固定資産については、リース資産はリース期間定額法、その他は資産の見積耐用年数に基づき、定率法により償却しております。 (会計方針の変更) 平成19年度税制改正に伴い、平成19年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法の償却方法に基づく定率法により減価償却費を計上しております。この変更による経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。 (追加情報) 当連結会計年度より、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、償却可能限度額に達した連結会計年度の翌連結会計年度以後、残存簿価を5年間で均等償却しております。なお、これによる連結貸借対照表等に与える影響は軽微であります。	(4) 減価償却の方法 ①有形固定資産（リース資産を除く） 当行の有形固定資産は、定率法を採用しております。 また、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物：3年～50年 その他：2年～20年 連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、定率法により償却しております。
	②無形固定資産 無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。	②無形固定資産（リース資産を除く） 同左
	③リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存簿価については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。	

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
<p>(5) 貸倒引当金の計上基準 当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。 また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。 上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績率から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。 すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。 なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は2,622百万円であります。 連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引き当てております。</p>	<p>(5) 貸倒引当金の計上基準 当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。 また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。 上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績率から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。 すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。 なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は5,427百万円であります。 連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引き当てております。</p>
<p>(6) 退職給付引当金の計上基準 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。 過去勤務債務：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により損益処理することとしております。 数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から損益処理することとしております。</p>	<p>(6) 退職給付引当金の計上基準 同左</p>
<p>(7) 役員退職慰労引当金の計上基準 役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく連結会計年度末支給見込額を計上しております。</p>	<p>(7) 役員退職慰労引当金の計上基準 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。</p>
<p>(8) 偶発損失引当金の計上基準 当行の偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。</p>	<p>(8) 偶発損失引当金の計上基準 同左</p>
<p>(9) 外貨建資産・負債の換算基準 当行の外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。</p>	<p>(9) 外貨建資産・負債の換算基準 同左</p>
<p>(10) リース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、借主側及び貸主側いずれについても通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。</p>	<p>—————</p>
<p>(11) 重要なヘッジ会計の方法 連結子会社のヘッジ会計の方法は、金利スワップの特例処理を行っております。</p>	<p>(11) 重要なヘッジ会計の方法 同左</p>
<p>(12) 消費税等の会計処理 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。 ただし、当行の有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。</p>	<p>(12) 消費税等の会計処理 同左</p>

	前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同左
6. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。	同左

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
<p>(金融商品に関する会計基準) 「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)及び「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号)等における有価証券の範囲に関する規定が一部改正され(平成19年6月15日付及び同7月4日付)、金融商品取引法の施行日以後に終了する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から改正会計基準及び実務指針を適用しております。</p>	<p>(リース取引に関する会計基準) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号同前)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準及び適用指針を適用しております。 これにより、「リース債権及びリース投資資産」に7,745百万円、「その他負債」中のリース債務に5百万円計上され、「有形固定資産」は6,983百万円、「無形固定資産」は729百万円減少し、当連結会計年度の経常損失は27百万円、税金等調整前当期純損失は28百万円減少しております。 また、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、借主側は、前連結会計年度末日における未経過リース料残高を取得価額とし、期首に取得したものととしてリース資産に計上し、貸主側は、前連結会計年度末日における固定資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資産の期首の価額とし、当該リース投資資産に関する利息相当額の各期への配分は、利息相当額の総額をリース期間中の各期に定額で配分する方法により計上しております。 なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p>

注記事項（連結貸借対照表関係）

前連結会計年度（平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成21年3月31日）																																		
<p>※1. 貸出金及びその他資産のうち、破綻先債権額は1,329百万円、延滞債権額は15,250百万円であります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>※2. 貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は該当ありません。</p> <p>なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>※3. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は5,118百万円であります。</p> <p>なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>※4. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は21,698百万円であります。</p> <p>なお、上記※1.から※4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>※5. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、16,554百万円であります。</p> <p>※6. 担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>担保に供している資産</td> <td></td> </tr> <tr> <td>預け金</td> <td>1百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券</td> <td>4,895百万円</td> </tr> <tr> <td>割賦債権</td> <td>1,337百万円</td> </tr> <tr> <td>その他資産</td> <td>10百万円</td> </tr> </table> <p>なお、割賦債権は連結貸借対照表のその他資産に計上しております。</p> <p>また、リース債権等4,298百万円を担保に供しております。</p> <table border="0"> <tr> <td>担保資産に対応する債務</td> <td></td> </tr> <tr> <td>預金</td> <td>2,560百万円</td> </tr> <tr> <td>借入金</td> <td>3,645百万円</td> </tr> </table> <p>上記のほか、為替決済等の取引の担保として、有価証券21,180百万円及びその他資産3百万円を差し入れております。</p> <p>なお、その他資産のうち保証金は87百万円であります。</p> <p>※7. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、34,957百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が34,766百万円あります。</p> <p>なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に（半年毎に）予め定めている行内（社内）手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。</p> <p>※8. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価を行った年月日 平成10年3月31日 同法律第3条第3項に定める再評価の方法</p> <p>土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額に基づいて、時点修正等合理的な調整を行って算出。</p> <p>同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 2,908百万円</p> <p>※9. 有形固定資産の減価償却累計額 17,844百万円</p> <p>※10. 有形固定資産の圧縮記帳額 1,958百万円 (当連結会計年度圧縮記帳額 一百万円)</p> <p>※11. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は350百万円であります。</p>	担保に供している資産		預け金	1百万円	有価証券	4,895百万円	割賦債権	1,337百万円	その他資産	10百万円	担保資産に対応する債務		預金	2,560百万円	借入金	3,645百万円	<p>※1. 貸出金及びその他資産のうち、破綻先債権額は1,214百万円、延滞債権額は14,370百万円であります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>※2. 貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は該当ありません。</p> <p>なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>※3. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は977百万円であります。</p> <p>なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>※4. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は16,562百万円であります。</p> <p>なお、上記※1.から※4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>※5. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、13,910百万円であります。</p> <p>※6. 担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>担保に供している資産</td> <td></td> </tr> <tr> <td>預け金</td> <td>1百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券</td> <td>4,899百万円</td> </tr> <tr> <td>リース債権及びリース投資資産</td> <td>4,089百万円</td> </tr> <tr> <td>割賦債権</td> <td>1,678百万円</td> </tr> <tr> <td>その他資産</td> <td>9百万円</td> </tr> </table> <p>なお、割賦債権は連結貸借対照表のその他資産に計上しております。</p> <table border="0"> <tr> <td>担保資産に対応する債務</td> <td></td> </tr> <tr> <td>預金</td> <td>2,185百万円</td> </tr> <tr> <td>借入金</td> <td>3,696百万円</td> </tr> </table> <p>上記のほか、為替決済等の取引の担保として、有価証券23,628百万円及びその他資産3百万円を差し入れております。</p> <p>なお、その他資産のうち保証金は88百万円であります。</p> <p>※7. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、34,626百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が34,126百万円あります。</p> <p>なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に（半年毎に）予め定めている行内（社内）手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。</p> <p>※8. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価を行った年月日 平成10年3月31日 同法律第3条第3項に定める再評価の方法</p> <p>土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額に基づいて、時点修正等合理的な調整を行って算出。</p> <p>同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 2,880百万円</p> <p>※9. 有形固定資産の減価償却累計額 6,070百万円</p> <p>※10. 有形固定資産の圧縮記帳額 1,958百万円 (当連結会計年度圧縮記帳額 一百万円)</p> <p>※11. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は450百万円であります。</p>	担保に供している資産		預け金	1百万円	有価証券	4,899百万円	リース債権及びリース投資資産	4,089百万円	割賦債権	1,678百万円	その他資産	9百万円	担保資産に対応する債務		預金	2,185百万円	借入金	3,696百万円
担保に供している資産																																			
預け金	1百万円																																		
有価証券	4,895百万円																																		
割賦債権	1,337百万円																																		
その他資産	10百万円																																		
担保資産に対応する債務																																			
預金	2,560百万円																																		
借入金	3,645百万円																																		
担保に供している資産																																			
預け金	1百万円																																		
有価証券	4,899百万円																																		
リース債権及びリース投資資産	4,089百万円																																		
割賦債権	1,678百万円																																		
その他資産	9百万円																																		
担保資産に対応する債務																																			
預金	2,185百万円																																		
借入金	3,696百万円																																		

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）												
<p>※1. その他経常収益には、株式等売却益298百万円を含んでおります。</p> <p>※2. その他の経常費用には、貸出金償却36百万円、株式等売却損223百万円及び株式等償却508百万円を含んでおります。</p> <p>※3. その他の特別利益には、リース資産処分損引当金取崩額23百万円を含んでおります。</p> <p>※4. 当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">地 域</th> <th style="width: 45%;">福岡県</th> <th style="width: 45%;">福岡県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主な用途</td> <td>営業店舗3か所</td> <td>遊休資産1か所</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>土地・建物</td> <td>土地</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>82百万円</td> <td>6百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>当行は、営業店舗については、キャッシュ・イン・フローが同一地域において相互補完的であることから、営業政策上の各ブロックを資産のグルーピング単位とし、遊休資産や売却予定資産等については、各資産を他の資産又は資産グループから独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としております。本部、事務センターや社宅等については、全社的な将来キャッシュ・フローの生成に寄与することから、共用資産としております。また、連結子会社は各社を一つのグルーピング単位としております。</p> <p>営業店舗については建替え又は移転(処分予定)を機関決定したことから、回収可能額が著しく低下する見込みであるため、また、遊休資産についてはキャッシュ・フローを生み出さないことから、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。</p> <p>当連結会計年度の減損損失の測定に使用した回収可能額は正味売却価額であります。正味売却価額は、「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定する方法」や「売却予定価格」等から処分費用見込額を控除して算定しております。</p>	地 域	福岡県	福岡県	主な用途	営業店舗3か所	遊休資産1か所	種 類	土地・建物	土地	減損損失	82百万円	6百万円	<p>※1. その他経常収益には、株式等売却益144百万円を含んでおります。</p> <p>※2. その他の経常費用には、貸出金償却39百万円、株式等売却損450百万円及び株式等償却1,332百万円を含んでおります。</p>
地 域	福岡県	福岡県											
主な用途	営業店舗3か所	遊休資産1か所											
種 類	土地・建物	土地											
減損損失	82百万円	6百万円											

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)	摘要
発行済株式					
普通株式	62,490	—	—	62,490	
合 計	62,490	—	—	62,490	
自己株式					
普通株式	204	49	2	251	注
合 計	204	49	2	251	

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加49千株は、単元未満株式の買取りによる増加、普通株式の自己株式の株式数の減少2千株は、単元未満株式の買増請求による減少であります。

2. 配当に関する事項

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの 金額(円)	基準日	効力発生日
平成19年6月28日 定時株主総会	普通株式	155	2.50	平成19年3月31日	平成19年6月29日
平成19年11月12日 取締役会	普通株式	155	2.50	平成19年9月30日	平成19年12月10日

基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たりの金額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	155	利益剰余金	2.50	平成20年3月31日	平成20年6月30日

当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)	摘要
発行済株式					
普通株式	62,490	—	—	62,490	
合 計	62,490	—	—	62,490	
自己株式					
普通株式	251	74	165	160	注
合 計	251	74	165	160	

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加74千株は、単元未満株式の買取りによる増加、普通株式の自己株式の株式数の減少165千株は、単元未満株式の買増請求による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの 金額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	155	2.50	平成20年3月31日	平成20年6月30日
平成20年11月14日 取締役会	普通株式	155	2.50	平成20年9月30日	平成20年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たりの金額 (円)	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	155	利益剰余金	2.50	平成21年3月31日	平成21年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)																				
<p>※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="0"> <tr> <td>平成20年3月31日現在</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現金預け金勘定</td> <td>22,457</td> </tr> <tr> <td>定期預け金</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td>その他預け金 (除く日銀預け金)</td> <td>△ 758</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>21,696</td> </tr> </table> <p>※2. 重要な非資金取引の内容 該当ありません。</p>	平成20年3月31日現在		現金預け金勘定	22,457	定期預け金	△ 1	その他預け金 (除く日銀預け金)	△ 758	現金及び現金同等物	21,696	<p>※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="0"> <tr> <td>平成21年3月31日現在</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現金預け金勘定</td> <td>35,675</td> </tr> <tr> <td>定期預け金</td> <td>△ 1</td> </tr> <tr> <td>その他預け金 (除く日銀預け金)</td> <td>△ 288</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>35,385</td> </tr> </table> <p>※2. 重要な非資金取引の内容 同左</p>	平成21年3月31日現在		現金預け金勘定	35,675	定期預け金	△ 1	その他預け金 (除く日銀預け金)	△ 288	現金及び現金同等物	35,385
平成20年3月31日現在																					
現金預け金勘定	22,457																				
定期預け金	△ 1																				
その他預け金 (除く日銀預け金)	△ 758																				
現金及び現金同等物	21,696																				
平成21年3月31日現在																					
現金預け金勘定	35,675																				
定期預け金	△ 1																				
その他預け金 (除く日銀預け金)	△ 288																				
現金及び現金同等物	35,385																				

(リース取引関係)

前連結会計年度 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)																																																		
<p>2. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (借主側) 金額に重要性がないため記載していません。 (貸主側)</p> <p>(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額、減損損失累計額及び年度末残高</p> <table border="0"> <tr> <td>取得価額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>動 産</td> <td>16,745百万円</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td>2,129百万円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>18,874百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>動 産</td> <td>9,542百万円</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td>1,227百万円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>10,770百万円</td> </tr> <tr> <td>減損損失累計額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>動 産</td> <td>—百万円</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td>—百万円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>—百万円</td> </tr> <tr> <td>年度末残高</td> <td></td> </tr> <tr> <td>動 産</td> <td>7,202百万円</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td>902百万円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>8,104百万円</td> </tr> </table> <p>(2) 未経過リース料年度末残高相当額</p> <table border="0"> <tr> <td>1年以内</td> <td>2,556百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>5,659百万円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>8,215百万円</td> </tr> </table> <p>(3) 受取リース料、減価償却費及び受取利息相当額</p> <table border="0"> <tr> <td>受取リース料</td> <td>3,185百万円</td> </tr> <tr> <td>減 価 償 却 費</td> <td>2,536百万円</td> </tr> <tr> <td>受取利息相当額</td> <td>375百万円</td> </tr> </table> <p>(4) 利息相当額の算定方法 リース料総額と見積残存価額の合計額からリース物件の購入価額を控除した額を利息相当額とし、各連結会計年度への配分方法については、利息法によっております。</p>	取得価額		動 産	16,745百万円	そ の 他	2,129百万円	合 計	18,874百万円	減価償却累計額		動 産	9,542百万円	そ の 他	1,227百万円	合 計	10,770百万円	減損損失累計額		動 産	—百万円	そ の 他	—百万円	合 計	—百万円	年度末残高		動 産	7,202百万円	そ の 他	902百万円	合 計	8,104百万円	1年以内	2,556百万円	1年超	5,659百万円	合 計	8,215百万円	受取リース料	3,185百万円	減 価 償 却 費	2,536百万円	受取利息相当額	375百万円	<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側) 金額に重要性がないため記載していません。 (貸主側) 金額に重要性がないため記載していません。</p> <p>3. オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <p>(借主側)</p> <table border="0"> <tr> <td>1年以内</td> <td>16百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>65百万円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>81百万円</td> </tr> </table> <p>(貸主側) 金額に重要性がないため記載していません。</p>	1年以内	16百万円	1年超	65百万円	合 計	81百万円
取得価額																																																			
動 産	16,745百万円																																																		
そ の 他	2,129百万円																																																		
合 計	18,874百万円																																																		
減価償却累計額																																																			
動 産	9,542百万円																																																		
そ の 他	1,227百万円																																																		
合 計	10,770百万円																																																		
減損損失累計額																																																			
動 産	—百万円																																																		
そ の 他	—百万円																																																		
合 計	—百万円																																																		
年度末残高																																																			
動 産	7,202百万円																																																		
そ の 他	902百万円																																																		
合 計	8,104百万円																																																		
1年以内	2,556百万円																																																		
1年超	5,659百万円																																																		
合 計	8,215百万円																																																		
受取リース料	3,185百万円																																																		
減 価 償 却 費	2,536百万円																																																		
受取利息相当額	375百万円																																																		
1年以内	16百万円																																																		
1年超	65百万円																																																		
合 計	81百万円																																																		

その他有価証券評価差額金

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次の通りであります。

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
評 価 差 額	277	△2,712
そ の 他 有 価 証 券	277	△2,712
(△)繰 延 税 金 負 債	112	0
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	165	△2,712
(△)少 数 株 主 持 分 相 当 額	5	0
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	160	△2,712

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当行は、従来、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び適格退職年金制度を設けておりましたが、平成20年4月1日より、退職一時金制度及び適格退職年金制度を統合し、ポイント制退職金制度として、退職一時金制度及び類似キャッシュ・バランス型の確定給付企業年金制度へ移行しております。また、連結子会社につきましては退職一時金制度を設けており、一部の連結子会社については併せて適格退職年金制度を設けております。

2.退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
退 職 給 付 債 務 (A)	△3,871	△3,816
年 金 資 産 (B)	2,294	1,951
未 積 立 退 職 給 付 債 務 (C)=(A)+(B)	△1,577	△1,865
未 認 識 数 理 計 算 上 の 差 異 (D)	60	401
未 認 識 過 去 勤 務 債 務 (債 務 の 減 額) (E)	△ 57	△ 42
連 結 貸 借 対 照 表 計 上 額 純 額 (F)=(C)+(D)+(E)	△1,574	△1,506
前 払 年 金 費 用 (G)	5	92
退 職 給 付 引 当 金 (F)-(G)	△1,580	△1,599

(注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3.退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
勤 務 費 用	179	176
利 息 費 用	79	76
期 待 運 用 収 益	△ 77	△ 67
過 去 勤 務 債 務 の 損 益 処 理 額 (△は益)	—	△ 14
数 理 計 算 上 の 差 異 の 損 益 処 理 額 (△は益)	△ 28	△ 32
退 職 給 付 費 用	152	137

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に含めて計上しております。

4.退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

区 分	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
(1) 割 引 率	2.0%	同左
(2) 期 待 運 用 収 益 率	3.0%	同左
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	5年（その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により損益処理することとしております。）	同左
(5) 数理計算上の差異の処理年数	5年（各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から損益処理することとしております。）	同左

(ストック・オプション等関係)

該当ありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）																																																										
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table border="0"> <tr><td>繰 延 税 金 資 産</td><td></td></tr> <tr><td>貸 倒 引 当 金</td><td>3,721百万円</td></tr> <tr><td>退 職 給 付 引 当 金</td><td>637百万円</td></tr> <tr><td>減 価 償 却 費</td><td>310百万円</td></tr> <tr><td>有 価 証 券 償 却</td><td>215百万円</td></tr> <tr><td>役 員 退 職 慰 労 引 当 金</td><td>158百万円</td></tr> <tr><td>そ の 他</td><td>615百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 資 産 小 計</td><td>5,659百万円</td></tr> <tr><td>評 価 性 引 当 額</td><td>△ 51百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 資 産 合 計</td><td>5,608百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 負 債</td><td></td></tr> <tr><td>そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金</td><td>△ 112百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 負 債 合 計</td><td>△ 112百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 資 産 の 純 額</td><td>5,496百万円</td></tr> </table> <p>2. 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。</p>	繰 延 税 金 資 産		貸 倒 引 当 金	3,721百万円	退 職 給 付 引 当 金	637百万円	減 価 償 却 費	310百万円	有 価 証 券 償 却	215百万円	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	158百万円	そ の 他	615百万円	繰 延 税 金 資 産 小 計	5,659百万円	評 価 性 引 当 額	△ 51百万円	繰 延 税 金 資 産 合 計	5,608百万円	繰 延 税 金 負 債		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 112百万円	繰 延 税 金 負 債 合 計	△ 112百万円	繰 延 税 金 資 産 の 純 額	5,496百万円	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table border="0"> <tr><td>繰 延 税 金 資 産</td><td></td></tr> <tr><td>貸 倒 引 当 金</td><td>3,751百万円</td></tr> <tr><td>有 価 証 券 償 却</td><td>679百万円</td></tr> <tr><td>退 職 給 付 引 当 金</td><td>610百万円</td></tr> <tr><td>税 務 上 の 繰 越 欠 損 金</td><td>571百万円</td></tr> <tr><td>減 価 償 却 費</td><td>377百万円</td></tr> <tr><td>役 員 退 職 慰 労 引 当 金</td><td>187百万円</td></tr> <tr><td>そ の 他</td><td>647百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 資 産 小 計</td><td>6,824百万円</td></tr> <tr><td>評 価 性 引 当 額</td><td>△1,253百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 資 産 合 計</td><td>5,570百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 負 債</td><td></td></tr> <tr><td>そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金</td><td>△ 0百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 負 債 合 計</td><td>△ 0百万円</td></tr> <tr><td>繰 延 税 金 資 産 の 純 額</td><td>5,570百万円</td></tr> </table> <p>2. 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>当連結会計年度は、税金等調整前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。</p>	繰 延 税 金 資 産		貸 倒 引 当 金	3,751百万円	有 価 証 券 償 却	679百万円	退 職 給 付 引 当 金	610百万円	税 務 上 の 繰 越 欠 損 金	571百万円	減 価 償 却 費	377百万円	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	187百万円	そ の 他	647百万円	繰 延 税 金 資 産 小 計	6,824百万円	評 価 性 引 当 額	△1,253百万円	繰 延 税 金 資 産 合 計	5,570百万円	繰 延 税 金 負 債		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 0百万円	繰 延 税 金 負 債 合 計	△ 0百万円	繰 延 税 金 資 産 の 純 額	5,570百万円
繰 延 税 金 資 産																																																											
貸 倒 引 当 金	3,721百万円																																																										
退 職 給 付 引 当 金	637百万円																																																										
減 価 償 却 費	310百万円																																																										
有 価 証 券 償 却	215百万円																																																										
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	158百万円																																																										
そ の 他	615百万円																																																										
繰 延 税 金 資 産 小 計	5,659百万円																																																										
評 価 性 引 当 額	△ 51百万円																																																										
繰 延 税 金 資 産 合 計	5,608百万円																																																										
繰 延 税 金 負 債																																																											
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 112百万円																																																										
繰 延 税 金 負 債 合 計	△ 112百万円																																																										
繰 延 税 金 資 産 の 純 額	5,496百万円																																																										
繰 延 税 金 資 産																																																											
貸 倒 引 当 金	3,751百万円																																																										
有 価 証 券 償 却	679百万円																																																										
退 職 給 付 引 当 金	610百万円																																																										
税 務 上 の 繰 越 欠 損 金	571百万円																																																										
減 価 償 却 費	377百万円																																																										
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	187百万円																																																										
そ の 他	647百万円																																																										
繰 延 税 金 資 産 小 計	6,824百万円																																																										
評 価 性 引 当 額	△1,253百万円																																																										
繰 延 税 金 資 産 合 計	5,570百万円																																																										
繰 延 税 金 負 債																																																											
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 0百万円																																																										
繰 延 税 金 負 債 合 計	△ 0百万円																																																										
繰 延 税 金 資 産 の 純 額	5,570百万円																																																										

リスク管理債権額

(単位：百万円)

項 目	平成20年3月31日	平成21年3月31日
破 綻 先 債 権 額	1,329	1,214
延 滞 債 権 額	15,250	14,370
3ヵ月以上延滞債権額	—	—
貸出条件緩和債権額	5,118	977
合 計	21,698	16,562

(自己資本比率の状況)

(参考)

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第19号。以下、「告示」という。）に定められた算式に基づき算出しております。

また、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

連結自己資本比率（国内基準）

(単位：百万円)

項 目		平成20年3月31日	平成21年3月31日
基本的項目 (Tier1)	資 本 金	8,000	8,000
	うち非累積的永久優先株	—	—
	新 株 式 申 込 証 拠 金	—	—
	資 本 剰 余 金	5,759	5,759
	利 益 剰 余 金	14,064	11,000
	自 己 株 式(△)	119	68
	自 己 株 式 申 込 証 拠 金	—	—
	社 外 流 出 予 定 額(△)	157	157
	そ の 他 有 価 証 券 の 評 価 差 損(△)	—	—
	為 替 換 算 調 整 勘 定	—	—
	新 株 予 約 権	—	—
	連結子法人等の少数株主持分	2,293	2,363
	うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券	—	—
	営 業 権 相 当 額(△)	—	—
	の れ ん 相 当 額(△)	—	—
	企業結合により計上される無形固定資産相当額(△)	—	—
	証券化取引に伴い増加した自己資本相当額(△)	—	—
	繰延税金資産の控除前の(基本的項目)計(上記各項目の合計額)	—	—
繰 延 税 金 資 産 の 控 除 金 額(△)	—	—	
計 (A)	29,840	26,897	
補完的項目 (Tier2)	うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券(注1)	—	—
	土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	1,785	1,770
	一 般 貸 倒 引 当 金	2,331	2,113
	負 債 性 資 本 調 達 手 段 等	—	—
	うち永久劣後債務(注2)	—	—
	うち期限付劣後債務及び期限付優先株(注3)	—	—
計	4,117	3,883	
控除項目	うち自己資本への算入額(B)	3,929	3,835
	控 除 項 目(注4)(C)	22	22
自己資本額	(A) + (B) - (C) (D)	33,747	30,709
リスク・アセット等	資産(オン・バランス)項目	319,916	307,169
	オフ・バランス取引等項目	1,631	1,218
	信用リスク・アセットの額(E)	321,547	308,387
	オペレーショナル・リスク相当額に係る額((G)/8%)(F)	21,447	21,996
	(参考) オペレーショナル・リスク相当額(G)	1,715	1,759
	計(E)+(F) (H)	342,995	330,384
連結自己資本比率(国内基準) = $\frac{D}{H} \times 100$		9.83%	9.29%
(参考) Tier 1 比率 = $\frac{A}{H} \times 100$		8.69%	8.14%

(注) 1. 告示第28条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等（海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む。）であります。

2. 告示第29条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。

- (1) 無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること
- (2) 一定の場合を除き、償還されないものであること
- (3) 業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること
- (4) 利払い義務の延期が認められるものであること

3. 告示第29条第1項第4号及び第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限られております。

4. 告示第31条第1項第1号から第6号に掲げるものであり、他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額、及び第2号に規定するものに対する投資に相当する額が含まれております。

(セグメント情報)

1. 事業の種類別セグメント情報

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）					
	銀行業	リース業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
I. 経常収益						
(1) 外部顧客に対する経常収益	13,823	4,931	92	18,848	—	18,848
(2) セグメント間の内部経常収益	64	436	66	566	(566)	—
計	13,887	5,368	159	19,415	(566)	18,848
経常費用	12,550	5,215	6	17,772	(568)	17,204
経常利益	1,336	152	152	1,642	1	1,643
II. 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	570,202	13,661	688	584,552	(6,551)	578,000
減価償却費	357	2,977	0	3,334	—	3,334
減損損失	89	—	—	89	—	89
資本的支出	1,720	3,119	0	4,840	—	4,840

- (注) 1. 事業区分は、連結会社の事業内容により区分しております。なお、一般企業の売上高及び営業利益に代えてそれぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
 2. 各事業の主な取扱業務は、次のとおりであります。
 (1) 銀行業……………銀行業及びそれに付随し、関連する業務
 (2) リース業……………リース業及びそれに付随し、関連する業務
 (3) その他の事業……………債務保証業及びそれに付随し、関連する業務
 3. 経常費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能経常費用の金額はありません。
 4. 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能資産の金額はありません。
 5. 連結財務諸表において貸倒引当金は791百万円の繰入となっております。その他の事業の個別財務諸表において特別利益に計上している貸倒引当金戻入益45百万円を、連結財務諸表では、経常費用より減算しているため、その他の事業の経常費用が6百万円となっております。なお、その他の事業の個別財務諸表における経常費用（貸倒引当金繰入額を除く）は前連結会計年度60百万円、当連結会計年度51百万円であります。

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）					
	銀行業	リース業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
I. 経常収益						
(1) 外部顧客に対する経常収益	13,621	5,239	72	18,933	—	18,933
(2) セグメント間の内部経常収益	70	325	51	447	(447)	—
計	13,692	5,565	123	19,380	(447)	18,933
経常費用	16,443	5,521	33	21,998	(455)	21,543
経常利益（△は経常損失）	△2,750	43	89	△2,617	7	△2,609
II. 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	584,324	13,656	686	598,667	(5,858)	592,809
減価償却費	696	281	3	980	(34)	946
減損損失	6	—	—	6	—	6
資本的支出	1,151	30	—	1,182	—	1,182

- (注) 1. 事業区分は、連結会社の事業内容により区分しております。なお、一般企業の売上高及び営業利益に代えてそれぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
 2. 各事業の主な取扱業務は、次のとおりであります。
 (1) 銀行業……………銀行業及びそれに付随し、関連する業務
 (2) リース業……………リース業及びそれに付随し、関連する業務
 (3) その他の事業……………債務保証業及びそれに付随し、関連する業務
 3. 経常費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能経常費用の金額はありません。
 4. 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能資産の金額はありません。
 5. 連結財務諸表において貸倒引当金は2,281百万円の繰入となっております。その他の事業の個別財務諸表において特別利益に計上している貸倒引当金戻入益19百万円を、連結財務諸表では、経常費用より減算しているため、その他の事業の経常費用が33百万円となっております。なお、その他の事業の個別財務諸表における経常費用（貸倒引当金繰入額を除く）は前連結会計年度51百万円、当連結会計年度53百万円であります。
 6. 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更記載のとおり、当連結会計年度から「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号平成19年3月30日）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号同前）を適用しております。この結果、従来の方法に比べ、リース業において経常利益は27百万円増加しております。

2. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
在外連結子会社及び在外支店がないため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。	同左

3.国際業務経常収益

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。	同左

(関連当事者情報)

前連結会計年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）	当連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
関連当事者との取引について記載すべき重要なものはありません。	<p>関連当事者情報について記載すべき重要なものはありません。 (追加情報)</p> <p>当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号平成18年10月17日)を適用しております。</p>

(1株当たり情報)

(単位：円)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)
1株当たり純資産額	482.64	387.17
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額(△)	11.80	△44.21

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	当連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額	32,337 百万円	26,496 百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	2,298 百万円	2,363 百万円
(うち少数株主持分)	2,298 百万円	2,363 百万円
普通株式に係る期末の純資産額	30,038 百万円	24,132 百万円
1株当たり純資産額の算定に 用いられた期末の普通株式の数	62,238 千株	62,329 千株

2. 1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)
当期純利益又は当期純損失(△)	735 百万円	△2,753 百万円
普通株主に帰属しない金額	— 百万円	— 百万円
普通株式に係る当期純利益 又は当期純損失(△)	735 百万円	△2,753 百万円
普通株式の期中平均株式数	62,260 千株	62,270 千株

3. なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、前連結会計年度は潜在株式がないので、当連結会計年度は1株当たり当期純損失金額を計上しているため記載していません。